

登録コード	HM128200	開講年度	2026			
授業題目	遺伝子診断学特論				担当教員	上原 剛 他
英文授業名	Molecular Pathology and Cytogenetics				副担当	岩谷 舞
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄				(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初, 2024HM医学分野初, 2023HM医学分野初					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能 ⇄				遺伝子異常が全身にどのような影響を及ぼすか理解できるようになり説明できるようになる。また遺伝子異常の解析方法の原理や、その解釈方法を理解し説明できるようになる。	
(2)詳細/Detailed information	遺伝子異常が全身にどのような影響を及ぼすか理解できるようになり説明できるようになる。また遺伝子異常の解析方法の原理や、その解釈方法を理解し説明できるようになる。					
(3)授業の概要/Overview of course	PCR, シークエンサー, 共焦点レーザー顕微鏡, DNA microarray, real time PCRなどの機器の使用方法について学ぶ。					
(4)授業計画/Course plan	(オムニバス方式) (上原剛/8回) 医学論文の症例報告の中から、非腫瘍性疾患の遺伝子異常症例に関して典型的なものを選択し、抄読会形式で授業を行い、各疾患の発生メカニズムや症状等ならびに検査方法などについて学ぶ。 (岩谷舞/7回) 医学論文の症例報告の中から、腫瘍性疾患の遺伝子異常症例に関して典型的なものを選択し、抄読会形式で授業を行い、各疾患の発生メカニズムや症状等ならびに検査方法などについて学ぶ。					
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	レポート評価 (i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	特になし					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時可					
(8)授業の形式/Course format	座学					